

森里川海からはじめる地域づくり～地域循環共生圏構築の手引き～

国土環境研究所 環境技術部 幸福 智、西 浩司、吉村 奈緒子、菊地 心、国土環境研究所 生態解析部 稲田 あや

「地域循環共生圏」は、第五次環境基本計画で環境政策の柱として位置付けられた新しい概念です。3年間実施された実証事業の成果を用いて、地域循環共生圏を具体的に構築するための考え方やプロセス、直面する課題とその解決方法を紹介した手引きが環境省より2019年3月公表されました。当社は本手引きの作成を支援いたしました。

※本業務は、環境省自然環境局自然環境計画課からの請負業務として実施しました。

はじめに

地域循環共生圏とは、「(1)各地域がその特性を活かした強みを発揮し、地域ごとに異なる資源が循環する自立・分散型の社会を形成しつつ、(2)それぞれの地域の特性に応じて近隣地域等と共生・対流し、より広域的なネットワーク(自然的なつながり[森里川海の連関]や経済的つながり[人、資金等])を構築していく」ことで、新たなバリューチェーンを生み出し、地域資源を補完し支え合いながら農山漁村も都市も活かすという考え方です。

本稿で紹介する「森里川海からはじめる地域づくり ～地域循環共生圏構築の手引き～」は、地域における具体的な地域循環共生圏の構築に資することを目的としてその概念を説明するとともに、3年間実施された実証事業の成果を材料として、地域で具体的な地域循環共生圏構築のプロジェクトを実行する際の考え方やプロセス、直面する課題とその解決方法を紹介したものです。

地域循環共生圏の構築に向けた視点やアプローチ

地域循環共生圏の構築には、従来型の環境保全活動とは異なる視点やアプローチが必要です。これらについて、手引きでは以下のとおり解説されています。

- ①地域外への支出を減らし、地域内の生産・消費を拡大することにより、資金等の地域資源の循環を増やしていくなど、お金の流れを変える視点を持つ。
- ②社会・経済に働きかけて環境の課題を解決する(環境・社会・経済の統合的解決)。この中でも特にビジネスの視点をもって取り組む。
- ③環境・社会・経済の同時解決を目指す地域循環共生圏はまさに持続可能な開発目標(SDGs)の達成に向けた優れたアプローチであり、これを理解して取り組みを進める。
- ④自然共生社会だけでなく、脱炭素・循環型社会の観点も盛り込む(環境省の目指す3社会の同時実現)。これにより、一つの取り組みの効果を多方面に波及させることができる。
- ⑤森里川海(地域の自然環境)に関する将来のビジョンをステークホルダー間で共有し、単独ではなくパートナーシップをもって取り組む。

2018年度に環境省が行った調査では、地域循環共生圏の取り組みに関わっている人の幸福度は、一般市民と比較して高いということが明らかになりました。今後、因果関係等のさらなる考察が課題ですが、④に示したとおり、地域循環共生圏は多様な効果を私たちにもたらしてくれるものと考えられます。

本手引きの内容と特徴

本手引きは、2016年度から3年間で実施された10の実証事業で得た知見を用いて、「地域循環共生圏を構築するための具体的な実践的手法」を掲載しているところに特徴があります。

さらに、取り組みを行おうとしている個人、団体、事業者、地方自治体の担当者等が本手引きを手にとった際、「課題解決のために具体的に取るべき行動」がすぐにイメージできる「実践的な手引き」として機能するよう、以下の工夫があります。

(1)インデックスを用いた活用性の向上

手引き冒頭にインデックスを設定し、活動主体の活動におけるレベルや状況に応じて、どのページを参照すればよいか分かるようになっています。

(2)プロジェクトの進捗段階に応じた解説

地域のプロジェクトを形成する場合には、いくつもの段階を踏むことになります。ここでは、「プロジェクト構想検討」から「プロジェクト進捗管理」まで4つの具体的なプロセスを示し、そのプロセスごとに解説を行っています(図1)。

(3)3本柱の設定と実体験に基づく解説

「プラットフォームづくり」「自立のための経済的仕組みづくり」「人材育成」を地域循環共生圏のプロジェクトを支える3本柱として位置づけました。これらについては、10の実証事業で得られた知見をベースに、その他の事例を交えながら詳細な解説を行っています(図1)。

(4)検討のためのワークシートの提示

プロジェクトの各プロセスにおいて活動者が悩むと考えられるポイントを解説するとともに、解決するためのワークシートが具体的な使用方法とともに掲載されています(図2)。

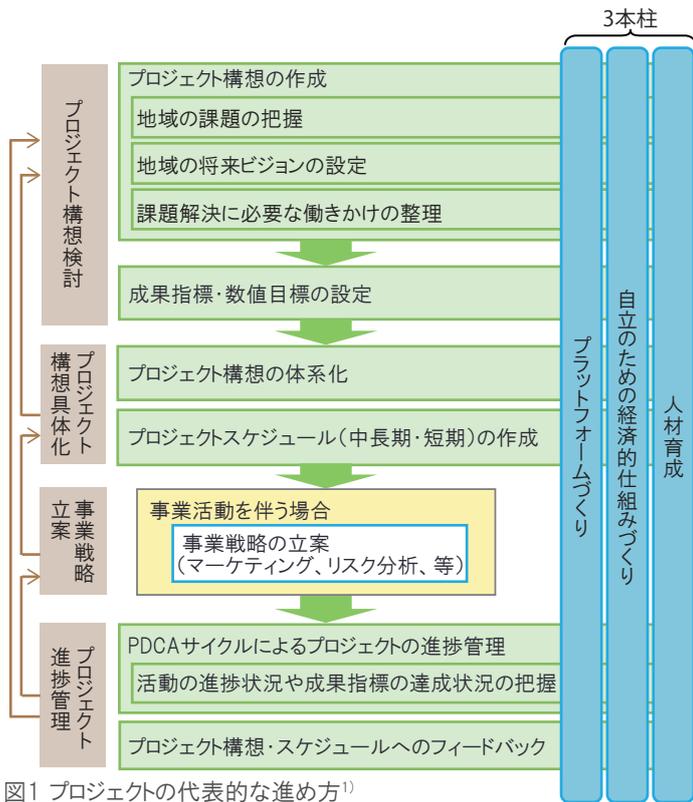


図1 プロジェクトの代表的な進め方¹⁾

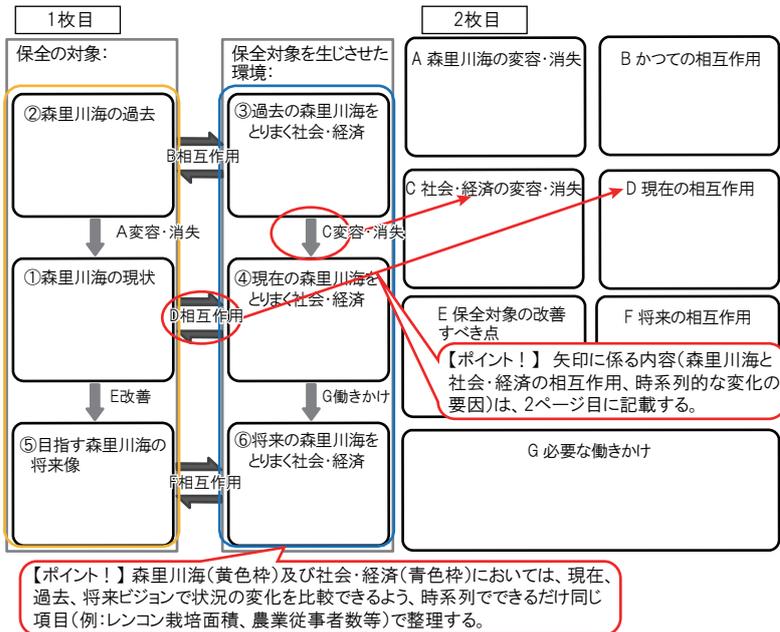


図2 ワークシートと解説例(エコロジカルシンキング・ワークシート)²⁾

(5)事業戦略の重要性とチェックリストの提示

地域循環共生圏のプロジェクトは、個々の地域資源を活用した経済的仕組み(事業等)が軌道に乗ることで初めて成果が具現化してくるものとし、「事業」の成功がプロジェクトの成否を握っていることが明記されています(図3)。また、そのためには適切な「事業戦略」を組み立てることが重要であることを示し、事業戦略において検討すべき要素を「事業戦略チェックリスト」(図4)に示しています。

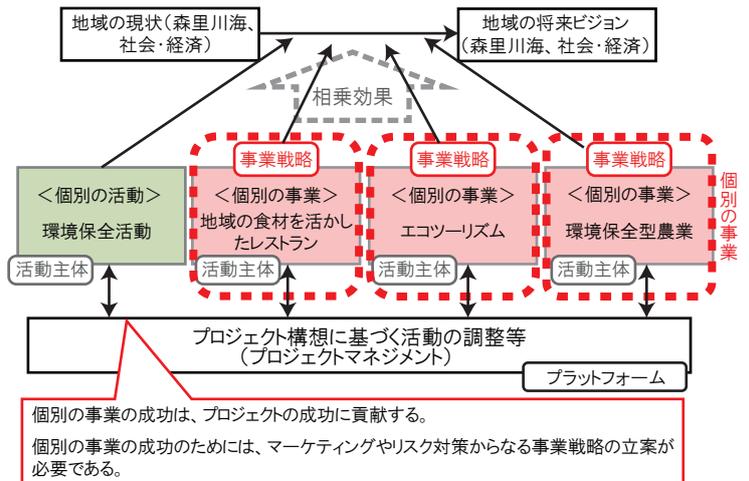


図3 「プロジェクト」と「事業」の関係性³⁾

確認項目	チェック項目	できている	できていない	必要ない	分からない
なぜその事業が必要か。何が問題なのか ※できていない・わからないにチェックがつく場合は、「4.1.1プロジェクト構想」のエコロジカルシンキング・ワークシートを見直してみよう。	事業が必要な理由を簡潔・明確に説明できますか？ 何が問題で、なぜ問題が生じたのか、その理由を説明できますか？	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
誰のための事業か。誰が困っているのか ※できていない・わからないにチェックがつく場合は、「4.2.1プラットフォームづくり」や「4.3.1プロジェクト構想の体系化」の体系図を見直してみよう。	問題によって困っているのは誰ですか？ 事業によって誰にどのような利益が生じるか説明できますか？ 直接的な受益者だけでなく、間接的な受益者や将来の受益者も考えられていますか？	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
事業によってどの程度まで問題を解決するのか ※できていない・わからないにチェックがつく場合は、「4.1.2成果指標の設定」の成果指標シートや「4.3.2計画・スケジュールの作成」を見直してみよう。	いつまで・何をどこまで改善させるのか、目標は明確ですか？ 身の丈に合った目標になっていますか？	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

図4 事業戦略チェックリストイメージ⁴⁾

おわりに

地域循環共生圏は、提唱されたばかりの新しい概念です。多くの地域課題を解決できるポテンシャルを有する一方、実践のためのさらなる情報整備・環境整備が課題です。情報整備としては、今後の取り組みの成果を踏まえて、本手引きを継続的に改善していく必要があります。環境整備としては、多くのステークホルダーが協働できる全国的なプラットフォームが必要です。

当社は、環境省が目指すプラットフォームづくりに対しても請負者として支援しており、環境整備と情報整備の両面から全国的な地域循環共生圏の構築に貢献してまいります。また、地域循環共生圏の理念を踏まえると、より地域に寄り添った取り組みも必要です。コンサルタントの枠にとらわれず、さまざまな形で地域課題の解決、持続可能な社会の実現に貢献してまいります。

〔出典〕

1)~4) 環境省ウェブサイト掲載資料「森里川海からはじめる地域づくり～地域循環共生圏構築の手引き～」を加工して作成
(https://www.env.go.jp/nature/morisatokawaumi/pdf/kyouseiken/tebiki_all.pdf)